



AKITA

〔10月〕

県内経済

概況

県内経済は、厳しい状況が続いているが、緩やかに持ち直している

木材の生産は大幅に落ち込んでいるものの、電子部品、機械金属は持ち直している。建設は、公共工事が前年を下回り、住宅着工も減少傾向が続いている。個人消費は弱いながらも持ち直しの動きとなっている。雇用情勢は改善の動きが弱まっている。

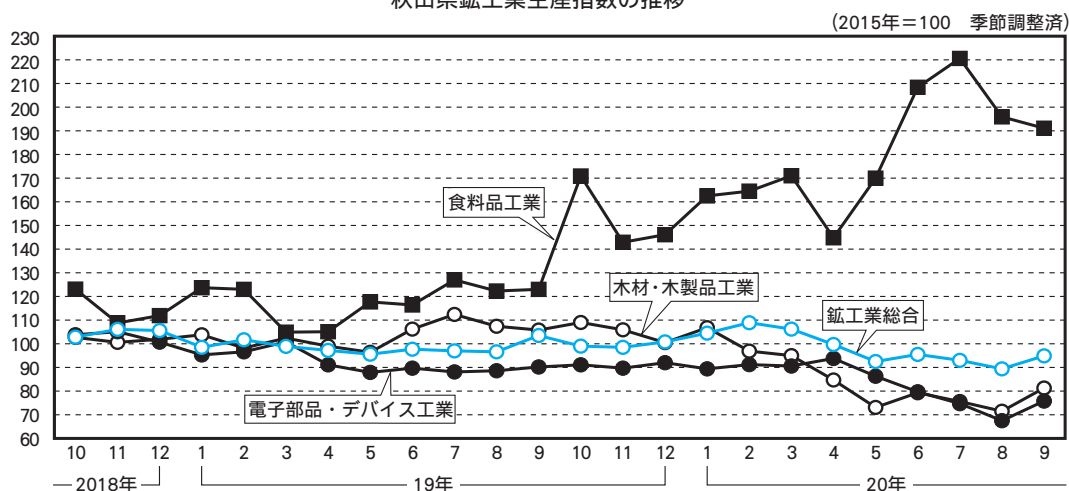
産業別の動向では、電子部品の生産額は、6か月連続で前年を下回ったが、次世代通信規格「5G」関連製品が増勢を強めているほか、車載向けも持ち直している。機械金属の生産額は、9か月連続で前年を下回ったが、輸送機械で海外需要の増加に加え、国内向けも回復してきており、増加傾向にある。木材の生産量は、普通合板（9月）、製材品ともに7か月連続で前年を下回り、生産調整が続いている。公共工事請負額は、2か月ぶりに前年を下回り、年度累計でも前年割れが続いている。地元大手（12社）の建設受注額は、官公庁工事で大口受注が

あり、4か月ぶりに前年を上回った。住宅着工は、減少傾向が続いている。個人消費は、小売店販売額（9月）が5か月ぶりに前年を下回ったが、新車乗用車販売台数が13か月ぶりに前年を上回り、全体として弱いながらも持ち直しの動きとなっている。

有効求人倍率は前月比0.02ポイント低下の1.21倍となった。新規求人数は前年比16.5%減となり、18か月連続で減少した。事業主都合離職者数は前年比20.3%増となり、7か月連続で前年を上回った。

企業倒産件数は2件、負債総額は4,000万円であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」

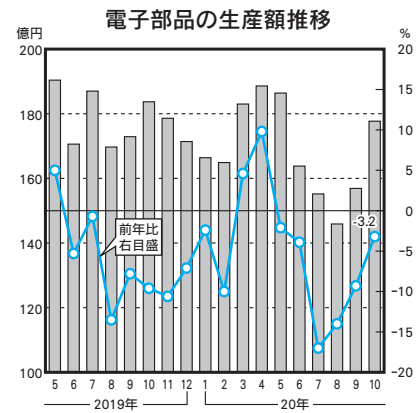
電子部品

生産額、前年比減少続くも急回復

10月の生産額は前年比3.2%減となり、6か月連続で前年実績を下回ったものの、金額的には急回復した。

スマートフォンやタブレット端末など「5G」関連の製品が増勢を強めているほか、低迷が続いていた車載向けも、先行して回復している海外向けに加え、国内向けが持ち直してきたことから増加傾向にある。

その他品目別では、主力のセラミック・コンデンサやコイルは堅調に推移しているものの、半導体素子は減少が続き、減少幅が拡大している。長らく低迷が続いていた産業向け液晶パネルは底を打った感がある。



(当研究所調べ、県内4社)

機械金属

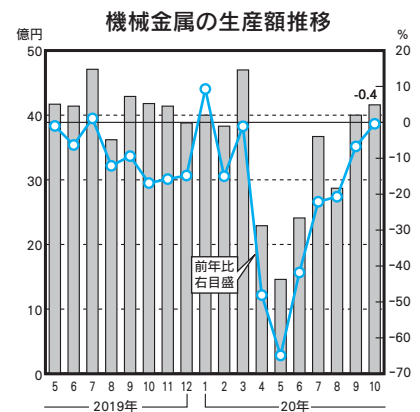
生産額、前年比減少続くも回復傾向

10月の生産額は前年比0.4%減となり、9か月連続で前年実績を下回ったものの、減少幅は縮小し、金額的には前年並みの水準に回復した。

ウエイトの高い輸送機械が、海外での需要増が続いていることに加え、低迷していた国内向けも回復してきたことから増加傾向にあり、全体の水準を押し上げた。

その他民需関連では、金型は減少が続き、建機部品、製鋼品は一進一退の動きとなっている。

公共工事関連では、橋梁・鉄骨は減少が続いているものの、低迷が続いていた水道部品は持ち直してきている。



(当研究所調べ、県内8社)

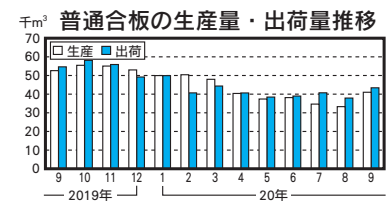
木材業

秋需期迎え荷動き増加も依然前年割れ

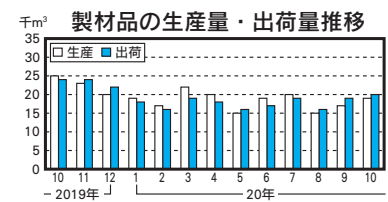
全国的に、新設住宅着工戸数の減少と新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、秋需期を迎え荷動きは増加傾向ながらも前年実績を下回り、本県でも依然回復の兆しは窺えない。

9月の普通合板は、生産量が前年比22.0%減と7か月連続で減少し、出荷量も同20.6%減と12か月連続で前年を下回った。メーカーによる生産調整（減産）の効果から、在庫量は同5.5%減と2か月連続で前年比マイナスとなった。

10月の製材品は、生産量が前年比24.0%減と7か月連続で前年を下回り、出荷量も同16.7%減と9か月連続で減少した。在庫量は同3.2%増と16か月連続で前年を上回った。



資料：秋田県農林水産部林業木材産業課



資料：農林水産省「製材統計」

酒造業

出荷量、4か月ぶりに前年比増加

10月の清酒出荷量は、前年比10.5%増と4か月ぶりに前年を上回った。前年同月に消費税率引上げの影響により大きく落ち込んだ反動から、前年比二桁増となった。出荷先別では、県内向けは同8.3%増、県外向けも同11.4%増となった。県外の主な出荷先別では、北海道が同10.7%増、東北5県は同16.9%増、東京も同6.2%増と、いずれも前年を上回った。

種類別では、普通酒は前年比15.4%増、特定名称酒は同4.7%増と、ともに増加した。特定名称酒の内訳では、本醸造酒が同5.1%減と前年を下回った一方で、吟醸酒は同10.0%増、純米酒も同1.3%増と、前年を上回った。



資料：秋田県酒造組合

建設業

公共工事 国、県、市町村が減少し、2か月ぶりに前年比減少

10月の公共工事請負金額は、国、県、市町村が揃って減少し、前年比39.6%減と2か月ぶりに前年を下回った。年度累計でも前年同期比4.0%減と前年割れが続いている。

一方、当研究所調査による地元大手12社の10月の新規受注額は、前年比14.0%増の2,071百万円と4か月ぶりに前年を上回った。うち民間工事は、同23.9%減と前年実績を下回ったが、官公庁工事は、土木で河川の災害対策工事等の大口受注があり、同36.5%増と伸びた。年度累計の受注実績は、前年同期比20.4%減と前月よりマイナス幅は小幅縮小したが、依然前年を大きく下回っている。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区分	10月	前年比	4~10月	前年同期比
件数	232	△21.1	2,117	△0.5
請負金額	7,462	△39.6	123,137	△4.0

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区分	10月	前年比	4~10月	前年同期比
官公庁	1,557	36.5	12,522	△16.7
民間	514	△23.9	3,171	△32.4
合計	2,071	14.0	15,693	△20.4

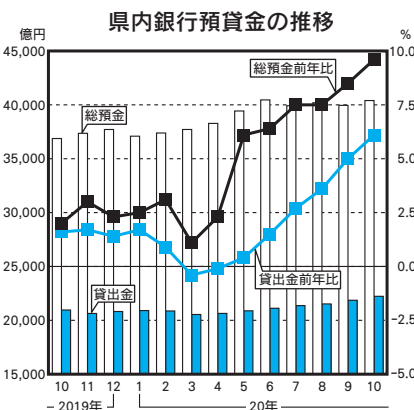
(当研究所調べ、県内12社)

金融

預金、貸出金とも伸び率の拡大続く

10月末の県内銀行の預金は、前月末比448億円増加し、前年比でも9.6%の増加となった。貸出金は、前月末比367億円増加し、前年比でも6.1%の増加と6か月連続で前年を上回った。新型コロナウイルス感染拡大の影響により資金需要が高まっているほか、一部企業で手元資金を厚くする動きがみられ、預金、貸出金とも伸び率の拡大が続いている。

10月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は2件(前年比横這い)、負債総額は4,000万円(同83.5%減)となった。負債総額は、2件とも負債額5千万円未満の小口倒産であったため、前年同月との対比では大幅に減少した。



資料：秋田県銀行協会

住宅着工

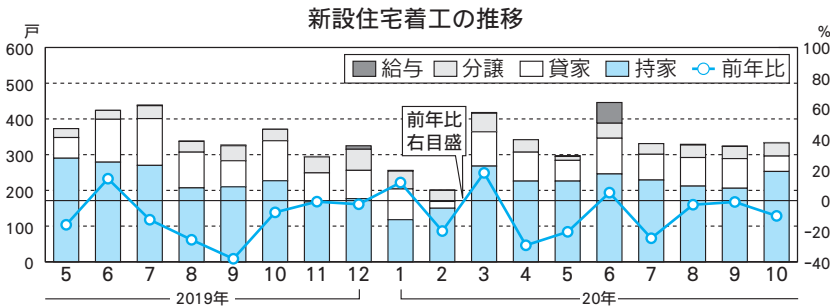
着工戸数、前年比減少幅が拡大

10月の県内新設住宅着工戸数は、334戸（前年比37戸減、10.0%減）と、4か月連続で前年を下回った。持家と分譲住宅は増加したものの、貸家が大きく減少したため、前年比減少幅は前月に比べて拡大した。

利用関係別では、持家が253戸（前年比26戸増）、貸家が43戸（同69戸減）、分譲住宅37戸（同5戸増）、給与住宅1戸（同1戸増）となった。

持家は、2か月ぶりに前年を上回った。貸家は、秋田市や北秋田地域、仙北地域などで民間の賃貸住宅が減少し、2か月ぶりに前年を下回った。分譲住宅は、2か月ぶりに前年を上回った。

地域別では、県央は持家と分譲住宅の着工が増加し、前年を上回った。県北は持家、貸家、分譲住宅、県南は貸家と分譲住宅の着工が各々減少し、前年を下回った。



資料：秋田県建築住宅課

住宅着工動向 (単位：戸、%)

区分	2020年10月	前年比	20年1~10月	前年比
県北	46	△50.0	692	△6.1
県央	197	7.1	1,791	△5.0
県南	91	△4.2	795	△17.7
合計	334	△10.0	3,278	△8.7

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

弱いながらも持ち直しの動き

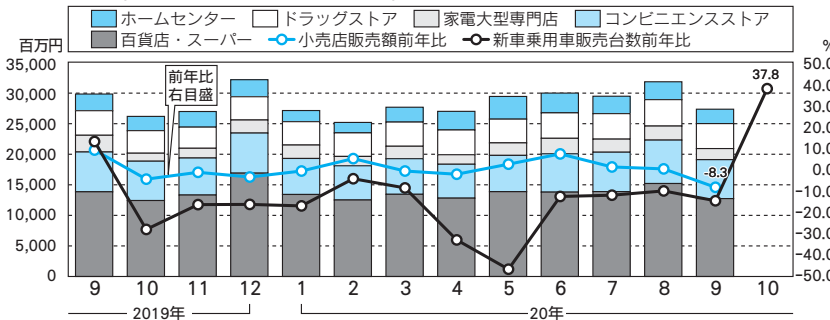
9月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、前年の消費税率引上げにともなう駆け込み需要の反動から前年比8.3%減となり、5か月ぶりに前年を下回った。

内訳をみると、ドラッグストア（前年比1.6%増）でわずかに増加したものの、家電大型専門店（同33.6%減）、ホームセンター（同13.6%減）、百貨店・スーパー

（同8.0%減）、コンビニエンスストア（同2.3%減）で減少した。

10月の新車乗用車販売台数は、前年比37.8%増の2,995台となった。前年同月が消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動で落ち込んでいたこともあり、登録車、軽乗用車とも13か月ぶりに前年を上回った。

小売店（商業動態統計主要6業態）販売額・新車乗用車販売台数の推移



資料：経済産業省、秋田県自動車販売店協会

10月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	2,995	37.8
登録車	1,626	36.0
普通車	697	35.9
小型車	856	33.3
輸入車	73	78.0
軽乗用車	1,369	40.0

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標 (前年比) (単位：%)

区分	7月	8月	9月
①消費者物価指数	△0.2	0.0	0.1
②勤労者名目賃金	0.4	4.3	3.3

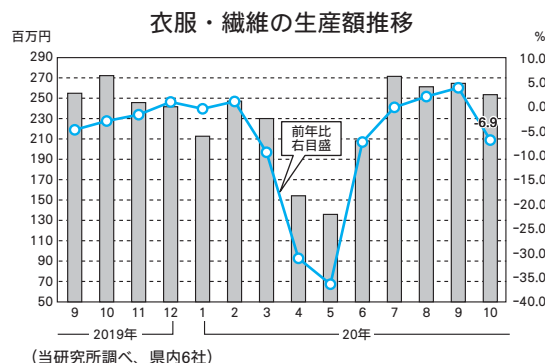
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、3か月ぶりに前年比減少

10月の生産額は、前年比6.9%減となった。医療・衛生関連商品が増加したものの、一般衣料は減少が続き、3か月ぶりに前年を下回った。

受注は、各アパレルメーカーとも売上減少にともなう商品在庫高止まりから、4か月連続で前年を下回った。



雇用

有効求人倍率、前月比0.02ポイント低下の1.21倍

10月の有効求人倍率は、前月比0.02ポイント低下の1.21倍となった。常用の内訳では、一般は前月比横這いの1.23倍、パートは同0.01ポイント低下の1.17倍となった。求人が求職を上回って推移しているが、新型コロナウイルス感染症の影響から改善の動きが弱まっている。

新規求人数は前年比16.5%減となり、18か月連続で前年を下回った。産業別にみると、製造業は同18.5%減となった。「情報通信機械」で増加したものの、「電子部品・デバイス・電子回路」、「繊維」、「電気機械器具」などで二桁の減少率となった。非製造業

は同16.3%減となった。人手不足が続く「建設」で増加したものの、「運輸、郵便」、「情報通信」、「卸売、小売」などで二桁の減少率となった。

新規求職者数は前年比5.3%減と、13か月連続で前年を下回った。

事業主都合離職者数は前年比20.3%増と、7か月連続で前年を上回った。

地域別雇用状況（パートを含む常用）をみると、新規求人数は県北、県央、県南ともに減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.43倍、県央が1.20倍、県南が1.05倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数（全数）

区分	2020年9月		10月	
	前年比	前年比	前年比	前年比
新規求人計	8,604	△3.3	8,091	△16.5
製造業	655	△31.1	727	△18.5
食料品	135	△36.9	200	△4.8
繊維	184	1.7	104	△33.3
木材・木製品	23	△47.7	32	△20.0
電子部品・デバイス・電子回路	44	△57.7	63	△53.7
電気機械器具	33	△38.9	32	△31.9
情報通信機械	4	300.0	16	220.0
非製造業	7,949	0.1	7,364	△16.3
建設	1,226	6.6	1,139	7.0
情報通信	71	16.4	53	△39.1
運輸、郵便	268	△22.5	420	△45.8
卸売、小売	1,217	△19.4	1,316	△26.3
宿泊、飲食サービス	1,169	0.1	705	△14.6
生活関連サービス、娯楽	282	△25.0	235	△12.3
医療、福祉	1,872	10.0	1,800	△4.8
サービス	965	6.7	933	△19.7
新規求職者数	3,473	△9.6	3,791	△5.3
有効求職者数	16,082	3.1	16,578	6.0

資料：秋田労働局職業安定課
(注) 臨時・季節を含む。

有効求人倍率および事業主都合離職者数

区分	2020年7月 8月 9月 10月			
	前年比	前年比	前年比	前年比
有効求人倍率	1.22	1.20	1.23	1.23
常用	1.09	1.18	1.18	1.17
パートタイム	1.25	1.23	1.23	1.21
事業主都合離職者数	339	366	230	273
前年比	0.6	188.2	21.7	20.3

10月の地域別雇用状況（パートを含む常用）

区分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比	前年比	前月比	前月比
県北	1,667	△15.6	1.43	△0.01
県央	3,643	△12.3	1.20	0.00
県南	1,873	△19.3	1.05	0.00
合計	7,183	△15.0	1.20	△0.01

(注) 臨時・季節を除く。